

# Music Café

川井龍介

244

いっぶう変わったスピーカーがあつて、近くこのスピーカーが主役の特別の「演奏会」が開かれるという。

題して「50年目のビル・エヴァンス」。今や伝説といつていいジャズ・ピアニスト、ビル・エヴァンスに「ワルツ・フォー・デビィ」（ユニバーサル・ミュージック、写真）という名作がある。

彼が姪のデビィのために作った曲がタイトルになったこのアルバムは、1996

1年6月25日に、ニューヨークのジャズ・クラブ、ヴィレッジ・ヴァンガードでのライブを収録したものだ。

甘く切ないバラードの傑作「マイ・フリーリッシュ・ハート」から始まり、可憐な趣の「ワルツ・フォー・デビィ」などビル・エヴァンスの繊細なタッチのピアノと、ベース（スコット・ラファロ）、そしてドラムス（ポール・モチアン）によるトリ

## 楽器のようなスピーカーで聴く 50年前の「伝説ライブ」

オが奏でる演奏はジャズ・ファンのみならず、耳にしたことのある人は多いだろう。このライブ録音から50年を記念して、エムズシステムというオーディオメーカーが、当時のライブの感覚を味わってもらおうと、50周年になる

ど微妙な音質の向上に心血を注ぐオーディオ・マニアがいるが、どうも私はその種の変化がよく分からず、オーディオの聴き分けは苦手だ。

しかし、その私にもこのスピーカーから伝わるライブの臨場感はぐつと手応えがあつた。最初の「マイ・フリーリッシュ・ハート」を耳にして「こんなにドラムの音は細かく響いていたかな？」などと、久しぶりに聴くこのアルバムに改めて聴き入った。

6月25日午後5時半からJR東京駅の大丸東京店11階で音楽鑑賞会を開くというのだ。

それにしても主役になるスピーカーとはいったいどんなものなのか。ライブの再現というのはどの程度のものを用いるのだろうか。そんな疑問を抱えて、同社を訪ね、視聴させてもらった。

私の知人で、CDをかける際にはまず磁気を除去するな

「音そのものではなく、楽器が奏でる空気感を感じてほしい」と、同社の三浦光仁社長は言う。

この空気感を醸し出すスピーカーは円筒形で、水平に置いて左右から音を広げる。これ一つで、通常二つに分かれたスピーカーの役割をする。

口コミで愛好家は広がり、とりわけ他のオーディオと比べると女性ファンが多いという。ビル・エヴァンスのCDも高音質盤が近く出される。この際、半世紀前の伝説のライブをじっくり堪能したい。

## ビル・エヴァンス

